



ルワンダで義足を作る -再建に向けて



アフリカ、ルワンダの地で義足、人道支援活動を地道に行ってきた女性、ルダシングワ（吉田）真美さんとパートナーのガテラ氏をお迎えし、20余年にわたるルワンダでの活動についてお話しいたします。

ルダシングワ（吉田）真美 氏

1963年神奈川県茅ヶ崎市生まれ。英語の専門学校卒業後、約6年間特許法律事務所やその他企業でOLをする。1989年ケニア・ナイロビにあったスワヒリ語学校に半年間留学し、その後東アフリカを旅行中に、現在の公私のパートナーである、足に障害を持つルワンダ人、ガテラ氏と出会い、ルワンダ大虐殺やルワンダの障害者の状況を聞き、義肢装具士になることを決意、1992年より横浜の義肢製作所に弟子入り、約5年間の修行後、義肢装具士の国家資格を取得。1995年大虐殺後のルワンダを調査し、1996年ガテラ氏と共にムリンディ/ジャパン・ワンラブ・プロジェクトを設立、翌年には首都キガリ市に義肢製作所を設け、義肢装具の製作、義肢装具士の育成、障害者スポーツの普及・障害者に対する職業訓練などの活動を進めている。



ガテラ・ルダシングワ・エマニュエル氏

1954年、ルワンダ共和国キガリ市ギソジ生まれ。幼い頃、病気の治療ミスのため、右足が麻痺した。1959年ルワンダ大虐殺が始まったころ、障害を負っているため自力で逃げることができず実の母親から見放され、ベルギー出身のカトリック神父が設立した障害者の施設で育つ。その施設で様々な恩恵を受け、その神父の「私がしたこと感謝する必要はない。その代わり弱者に対して手を差し伸べる気持ちを持って」という意思を引き継ぎ、現在の活動を進めている。1980年代、ルワンダの紛争を避けるためにケニアに逃れ、アフリカ民芸品を卸しながら過ごし、パートナーの吉田真美と出会う。ケニアでは難民として日々を過ごしていた。1994年のルワンダ大虐殺終結後、ルワンダに戻り、1996年NGOムリンディ・ジャパン・ワンラブ・プロジェクトを設立。現ルワンダ事務所代表。障害者に義肢装具を提供すると共に、障害者スポーツの普及に力を注ぐ。



司会 山崎 瑛莉 講師 上智大学グローバル教育センター
国際協力人材育成センター所員

2023年5月23日(火) 17:30~19:30

会場：上智大学四谷キャンパス 2号館17階国際会議場またはZoomオンライン
言語：日本語
対象：学生、教職員、一般（無料・要事前申込）

来場参会申込
定員：120名



Zoomオンライン参加申込

ご登録いただいたメールアドレス宛にアクセス用のURL・パスワードをイベント前に送付いたします。視聴にかかる通信費等は視聴する方の負担となります。

